

2023年度 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

報告者 園長 加藤篤彦

I 自己評価

1. 本校の教育目標

「みんななかよし すなおなところ こんきのよさ」

2. 本年度の重点目標

- 1) 教育重点「保護者の皆様と園児の育ちをより身近に共有する」
- 2) 満3歳児保育と学齢2歳児の受け入れ拡充
- 3) 年少3歳児(自閉症児)のクラス増設
- 4) 幼児教育の質向上のための整備、工事等
 - ・質の高い保育を支えるためのICT環境の充実(第一幼稚園・第二幼稚園)
 - ・遊びを通じた身体作りを促す園庭築山の環境整備(第一幼稚園)
 - ・満3歳児クラス環境向上のためのリニューアル工事(第一幼稚園)
 - ・年少自閉症児クラスの園庭環境の整備(第二幼稚園)
 - ・預かり保育環境向上のためのリニューアル工事(第二幼稚園)

3. 重点目標についての評価 (A)と取り組み状況や課題

A・・・達成できた B・・・概ね達成できた C・・・達成が不十分 D・・・達成できていない

1) 「保護者の皆様と園児の育ちをより身近に共有する」 (A)

保護者情報共有アプリ「おうちえん」を導入することにより、園児の育ちを即時に、分かりやすく配信できた。画像や動画を中心に配信することで、園児の様子を視覚的に伝えられるようになり、スマートフォンから閲覧しやすくなった。また家庭にて配信画像を見ながら、親子で園の出来事を話すきっかけにもなっている。さらに配信先を園全体やクラス、個人と選択できるため閉じたネットワークとして個人情報への安心も確保できた。

ア. クラスだよりの発展的解消。月に4回程度、クラスの様子を配信

画像、動画を中心にしながら、園児の学びや育ちを端的な文章にまとめ配信した。以前のクラスだよりに比べ、出来事を紙面にまとめてPDF化するよりも配信までの能率があがり、リアルタイムに家庭との情報共有ができ、安心感にもつながっている。また動画を利用することで、いきいきとした子どもたちの姿、雰囲気を知らせることもできた。

イ. 行事等、さまざまな活動のプロセスにある姿、学びを振り返るタグの利用

記事にタグをつけて配信することで、タグ検索で、保護者が同じテーマでの記事を取り出しプロセスを順次みられるようになった。また、園まつり(造形作品展)では、'園まつり'のタグでまとめた投稿を大きく印刷してドキュメンテーションとして掲示した。作品の近くに QR コードも掲示することで、作品だけでなく制作プロセスもその場で見られるようにした。作品の見え方が深まるきっかけとなり、保護者からも好評だった。

ウ. 保護者会の充実

保護者会では、毎回担任からクラスの子どもたちの様子を伝えている。アプリの利用により、保護者会のタイミングで手元のスマートフォンで画像を見ていただき話を進めるなどの工夫もした。また、保護者会は、録画配信も毎回行い、出席した方以外のご家族が視聴や、出席した方が振り返りに利用することもでき、新しい効果を生みだした。

エ. その他

「おうちえん」の他にも、デジタルサイネージ、iPad 等を取り入れ、保護者によりよく情報発信ができるようにしている。

2) 満 3 歳児保育と学齢 2 歳児の受け入れ拡充 (A)

学齢 2 歳・満 3 歳児クラスを希望する家庭が増加していることに伴い、1 クラス増設し、2 クラスの園児受け入れをした。学齢 2 歳、満 3 歳児ともに週 5 日保育に変更した。園児が安心して環境に慣れていけるように、親子登園からスタートし、徐々に日数や保育時間を増やすなど、段階的に丁寧に保育を行っていった。1 年を通して、保育者や友達と共に過ごす楽しさを味わい順調に集団形成ができ年少組につながられたと考えている。

3) 年少 3 歳児(自閉症児)のクラス増設 (A)

少人数クラス(自閉症児対応)では、募集数を上回ってご希望いただいている状況が続いている。そのためできるだけ希望する方を受け入れられるように年少組を1クラス増やして、2クラス編成とした。また保育室を確保するために第二園舎に移動した。これによって自閉症児クラスは3学年を園舎の同じエリアで保育できるようになり、保育者間の情報交換もスムーズに行えるようになった。

4) 幼児教育の質向上のための整備、工事等 (A)

・質の高い保育を支えるための ICT 環境の充実(第一幼稚園・第二幼稚園)

第二幼稚園では、保育環境の一つとして多様に活用している iPad を、第一幼稚園でも

適宜必要なタイミングで有効に活用できるように台数を増やした。保育では、体験を振り返ったり、イメージしているものを表現するための手立てに活用したりなど、保育環境の充実に繋げることができた。第二幼稚園では、撮影用のデジタルカメラを iPhoneSE に切り替えた。撮影の性能が向上し、より鮮明な画像や動画を保護者へ配信したり、園内研修に利用したりすることができるようになった。さらに、ネット環境の充実も図ったことで、園内での園児の活動、リアル開催と併用したオンラインでの保護者会、行事など、活用の幅が広がった。

・遊びを通した身体作りを促す園庭築山の環境整備（第一幼稚園）

第一幼稚園の園庭の中心ともなっている築山の環境整備（土流出防止用枕木の設置、土の追加、ウッドチップなどの安全対策、階段の増設）を行った。そのことによって、より安全に上り下りを楽しめるようになり、園児の心身を育むとともに、様々な遊びが生まれる充実した築山となった。

・満3歳児クラス環境向上のためのリニューアル工事（第一幼稚園）

学齢2歳児や満3歳児に対応した手洗い場を保育室に新設した。この年齢の子どもたちは手で触れながら、様々な素材・道具の探究をしていく。絵の具などに触れた際にもすぐに手洗いを済ませ、夢中を継続しながら遊びを再開したり新たな遊びをはじめたりすることができるようになった。食事の準備もスムーズになるなど、手洗い場が身近になったことのメリットが大きい。

・年少自閉症児クラスの園庭環境の整備（第二幼稚園）

保育室の目の前に、自分たちの拠点として遊べる小さな園庭を用意した。ここには寝転べる人工芝や小さな滑り台と砂場、さらに運動遊びができるウッドデッキなどを整えた。入園当初は活発に遊ぶ4,5歳児を自分たちの拠点から眺めて刺激を受けたり、小さな園庭でのびのびと遊んだりすることからはじめ、次第に遊びの場を広げていきかけとなり、充実した場となっている。4,5歳児も小さな園庭に魅力を感じ遊びに来るため、異年齢児が触れ合う場としても活躍している。

・預かり保育環境向上のためのリニューアル工事（第二幼稚園）

預かり保育へのニーズが高まり、利用者数も増加しているため、遊びの素材や道具、玩具、生活に必要な物品も充実を図っている。その道具などを、遊びや生活の必要に応じて出入れをするための収納棚や、収納の場を仕切るロールスクリーンカーテンを設置した。そうしたことで、広い場所を確保し、遊びごとにコーナーを設けたり、生活の場と遊びの場をわけたりして、スペースを有効に活用できるようになった。

4. 総合的な評価と今後の課題

保護者とより身近に園児の情報を共有することで、より幼児教育の意味を問うことのできる穏やかな保育環境となった。保護者とともに子どもの育ちを支えていけるように発信を大切にしていきたい。

今年度はこども基本法が制定されるなど、こどもの人権を保障する機運が高まった。子ども自身が伸びやかに自己表現できることは、保育の基本であり、安心した環境の中での自己表現を学びや育ちの土台と考え、豊かに表現できる保育環境を整えていきたい。

学齢2歳・満3歳児の保育ニーズがあるため、今年度に加え、新年度も1クラス増設する予定である。月齢や個性によって様々なニーズがあることから、週2登園の保育実施や、親子教室の開設、保護者同士のおしゃべりの場など、多様に展開していく。

自閉症児クラスでは、希望される方よりも受け入れ数が低いため、この教育を望まれる方をできるだけ受け入れられるようにしていきたい。預かり保育のニーズも増加しているため、量の確保が必要である。同時に、保護者のお迎えの利便性向上のための工夫もしていく。

II 学校関係者評価

1) 教育重点

「保護者の皆様と園児の育ちをより身近に共有する」

- ・コミュニケーションがとれている実感がある。
- ・共有するための方法をいろいろ取り入れていることを評価する。

コロナ禍があげ、直接に来園して園長、担任等から話を伺えることが何よりの安心感につながった。

- ・何か変化があった際には、見通しを知らせていただくことが信頼に繋がる。今後も丁寧に情報を提供してほしい。

2) 満3歳児保育と学齢2歳児の受け入れ拡充

- ・学齢2歳、満3歳クラスに就園したいというニーズは高い。

次年度に向け、週2コース、週5コースなど多様に取り組み、工夫されているところがよい

- ・年度途中にも新入園児を受け入れてもらえるようにしてもらいたい。

3) 年少3歳児(自閉症児)クラスの増設

(特に委員からの意見はなし)

4) 幼児教育の質向上のための整備、工事等

○保護者との連携

- ・役員となって一人で請け負う役割は、負担を感じてしまうことがある。クラス皆で取り組めるものなど、気軽に協力できる取り組みがあるとよい。卒園式のクラス毎の装飾ボード作成がなくなり、役員中心ではなく、皆が紙花作りをして装飾できたことはよかった。
- ・保護者の手伝いやサークル活動では、父親、母親と分ける必要はないのではないかと。得意を生かした手伝いを募集する方法が有効であると思う。例えば、外国語しか話せない方への通訳や手紙類の翻訳などのボランティアがあってよいのではないかと。

○役員会の在り方

- ・来園するのであれば、ディスカッション、提案など、双方向性のある会に
- ・会議後に、保育見学などができて、子どもの様子を把握できるとうれしいのではないかと。
- ・保育見学が難しい時期などには、スライドショーで園児の様子を紹介するなどして、役員が安心を得ることで、クラスまとめ役として雰囲気を作っていくことができるのではないかと。

○課外教室

- ・年長課外体育、ダンスなど子どもの様子が見える状況、見学の機会があるとよい。他には、学期に一度見学会や、画像を掲示するなどの工夫などもありたい。
- ・預かり保育との連携では、課外教室後の利用あとの利用料金が値上がりしているように見えるので、丁寧に説明をすることが大切である。

○預かり保育の人数増加、利用しやすさの提供

- ・年度の後半に、預かり保育の利用人数が増加したのか、申込時間スタートしてすぐに予約がとれなくなったので、改善されるとよい。

○幼児教育の質の向上のための整備、工事について

- ・ICT 環境の充実は、コロナ禍を経験して、とても重要だということを実感している。幼稚園の活動の中でも iPad を使った取り組みを行っているのは、とてもよいことだと思う。幼稚園での活動の様子も動画でお知らせいただくと、より分かりやすく、子どもからの幼稚園の話題にも共感して聞くことができてよかった。ただ、ネット環境には子どもにとって心配なこともあるので、子どもたちが iPad を使う時には気を付けて取り扱ってほしい。
- ・園庭の環境が充実したことで、子どもが楽しく遊んでいる様子が見える。家庭ではのびのびと遊べる時間も限られているので、幼稚園の環境が充実することはとてもありがたい。今回、子どもたちの環境づくりに保護者も少しお手伝いで関わることができてよかった。